

お米と果物とミルクのふしぎ体験教室

事業代表者：宇都宮大学農学部 教授 居城幸夫
構 成 員：宇都宮大学農学部 教授 長尾慶和
宇都宮大学農学部 准教授 高橋行継
宇都宮大学農学部 准教授 柏 寄 勝

1. 事業の目的・意義

附属農場の自然の中で、収穫や動物とのふれあい、収穫物の加工、試食などを通じて、自分たちの食を支える生産現場や植物や動物たちの様子を学ぶことにより、豊かな感性や自然や生命を尊ぶ心を育む。

2. 事業の内容

実施内容により安全に実施できる受け入れ可能人数が異なるため、例年通り、お米と果物コースとミルクコースの2つのコースを別々に開催した。お米と果物コースについては、本年度も昨年までと同様に、作物（お米）部門と園芸（果物）部門を中心に、機械部門と畜産（ウシ）部門も加わり、各専任教員の指導の下で、それぞれの分野の体験実習を行った（詳細は下記参照）。ミルクコースについては、畜産部門に特化した内容で行った（詳細は下記参照）。案内と募集は、宇都宮市内小学校へのダイレクトメールと宇都宮市の情報誌「こどもっくる」への掲載により行った。「お米と果物コース」については、定員30家族に対して21家族・49名の参加で実施した。「ミルクコース」については、今年も2回合計の定員20家族を大きく上回る応募があったが、抽選により22家族・57名を受け入れた。安全性や内容の充実の関係で、ミルクコースで受け入れられる人数に限界があり、応募者全員を受け入れられないことは残念である。内容の詳細について以下に記す。

お米と果物コース：5月から12月にかけて、約1ヶ月おきに6回開催した。水稻の田植えや収穫、ナシの摘果や収穫、農作業機械体験、乳牛の飼養管理の見学、などを春から秋にかけて季節を追いながら実施した。

●日程と内容：

第1日 平成29年5月28日(日)

- ・オリエンテーション
- ・お米の苗を田植えしよう！（図1）

第2日 平成29年7月2日(日)

- ・お米の苗はりっぱに育っているかな？
- ・ナシの赤ちゃんを守ってあげよう
&ブルーベリーの収穫と試食

第3日 平成29年8月27日(日)

- ・機械の力と不思議を体験しよう！
- ・ナシやリンゴを収穫するぞ！（果物試食）

第4日 平成29年10月1日(日)

- ・さあ、お米の収穫だ！
- ・お米の収穫に大きな機械が大活躍！

第5日 平成29年10月29日(日)

- ・大きな美味しいナシを収穫しよう！
- ・収穫したお米を食べてみよう！（お米試食）

第6日 平成27年12月5日(土)

- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！（図2）
- ・質疑応答コーナー（ミルク試飲）

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：21家族49名



図1. お米の苗を田植えしよう！



図2. ウシの暮らしをのぞいてみよう！

ミルクコース：5月下旬から6月中旬の週末毎に2日間のコースを2回開催した。乳牛のブラッシングや給餌・搾乳、ヒツジの毛刈り、アイスクリーム加工などの体験を実施した。

●日程と内容：

第1回

第1日 平成29年5月20日(土)

- ・オリエンテーション
- ・ウシとミルクの不思議解説

- ・放牧場でウシと遊ぼう！（図3）
- ・ウシさんにご飯をあげよう！（図4）
- ・ウシのお家を探検しよう！（図5）
- ・ヒツジの毛刈りに挑戦！（図6）

第2日 平成29年5月27日（日）

- ・搾りたてミルクを飲みくらべてみよう（図7）
- ・搾りたてミルクでアイスを作ろう！（図8）
- ・ウシさんにブラシをかけてあげよう！（図9）
- ・乳しぼりにチャレンジ！（図10）
- ・質疑応答コーナー

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：11家族28名

第2回

第1日 平成29年6月11日（日）

- ・オリエンテーション
- ・ウシとミルクの不思議解説
- ・放牧場でウシと遊ぼう！
- ・ウシさんにご飯をあげよう！
- ・ウシのお家を探検しよう！
- ・ヒツジの毛刈りに挑戦！

第2日 平成29年6月18日（日）

- ・搾りたてミルクを飲みくらべてみよう
- ・搾りたてミルクでアイスを作ろう！
- ・ウシさんにブラシをかけてあげよう！
- ・乳しぼりにチャレンジ！
- ・質疑応答コーナー

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：11家族29名



図3. 放牧場でウシと遊ぼう！



図4. ウシさんにご飯をあげよう！



図5. ウシさんのお家を探検しよう



図6. ヒツジの毛刈りにチャレンジ！



図7. 搾りたてミルクの飲みくらべ



図8. 搾りたてミルクでアイスを作ろう！



図9. ウシさんにブラシをかけてあげよう！



図10. 乳しぼりにチャレンジ！

3. 事業の成果

平成 29 年度も、地域の多くの子供たちとその保護者に体験実習を提供し、自分たちの「食」と「農業」の結びつきや、「食」や「農業」を支える「生命」や「科学」について、幅広く理解を深めることができた。最終日のアンケートにおいては、参加した保護者から「果物や動物などを実際に見たり触ったりして、他ではできない貴重な体験ができた」、「収穫して直ぐのお米や果物や牛乳の美味しさは格別だった」、「子どもたちが『いただきます』の意味を体験的に理解し、ご飯を残さずに食べるようになった」などの声が多数寄せられた。これらの体験が、必ずや子供たちの食への意識の向上や豊かな感受性を育くむための一助となるであろうことを確信している。

4. 今後の展望

長年の継続的な実施により、地域からの期待が大きく、平成 30 年度も継続して実施する予定である。